

『上海本』 蒐録 (3)

倉 橋 幸 彦

My Library on Shanghai in Japanese (3)

KURAHASHI Yukihiro

本書日は、先に公にした「『上海本』 蒐録 (1)」(『大阪産業大学人間環境論集 4』, 平成17年6月17日)と「『上海本』 蒐録 (2)」(『大阪産業大学人間環境論集 5』, 平成18年3月31日)の続編である。

ここに採録した『上海本』(一部雑誌の特集号を含む(「I-69・73・89」))は、昭和2(1927)年から、上海事変勃発の前年、昭和6(1931)年を下限とする。

なお、I・II・III・IV各項に附した番号は、「『上海本』 蒐録 (2)」を継ぐ通し番号である。

【1927-1931】

1円50銭 カバー

I. 上海本

[注1]:「発行者」名義は村松義。

◆口絵; 写真1頁:(支那服を着た) 著者/目次

1頁|| 上海1-291/南京293-358〔☆『魔都』

(「I-35」) 所収と同一]

<1927>

[参考1]:「村松梢風氏著(七版)/近代世界の

興味と不安は支那に向つて集中されて

ゐる、支那は謎の国である、其の謎の

心臓が上海だ。本書は上海を背景とし

た著者の体験小説だ、著者は文壇切つ

ての上海通。先年支那の名優緑牡丹を

日本へ紹介し、それに関連して想像す

べからざる数多の奇怪な事件に遭遇

57. 小説 上海

村松梢風

騒人社(東京)

昭和2年4月3日

四六版 358頁 図版

平成19年2月28日 原稿受理

大阪産業大学 人間環境学部教授

し、上海生活のあらゆる体験を積んで此の小説を書いた。濃艶な恋愛、恐るべき犯罪、著者みづから探偵となつて活動する等—歡樂と秘密の都上海の世相を如実に描き出してゐる。／文壇の耳目を震駭させた異常な大傑作」(村松梢風『支那漫談』(「I-63」) 卷末の宣伝)

[参考2]:『言語』:和田博文「村松梢風—「他者」と出会うための旅」(p45-53)

[参考3]:再版(同年4月6日)の影印本あり。『上海』[リバイバル〈外地〉文学選集(第二回配本)第十二卷](大空社, 2000年10月28日, 10,000円+税, 函, 高橋隆治「解説『上海』」6頁)

[参考4]:上記高橋隆治「解説『上海』」(p5):「上海に関するルポルタージュや小説の類はきわめて多い。日中全面戦争から終戦までの間だけでも、数十冊の単行本がある。それらの作品の先駆をなすものが村松梢風の『上海』で、これに刺激されて作家たちが上海に関心をもつようになったといつてもけつして過言ではないだろう」。

58. 第十一版 上海案内

杉江房造

日本堂書店(上海文路227号)

昭和2年5月18日

四六版 528頁 図版・表・地図

2円50銭 カバー

[注1]:杉江房造は「編輯兼発行人」。

[注2]:印刷所は蘆澤印刷所(海寧路14号)。

◆[島津四十起]上海を歌へる我が詩の一節

[☆題箋裏]／はしがき2頁／目次9頁／口絵20頁; 総領事矢田七太郎／商務官横竹平太郎／上海の官公所2頁／上海の風景5頁／上海の名所2頁

／上海の風俗3頁／上海の船／上海附近の風景／上海支那人の建物／上海邦人の学校と寺院／上海邦人の官衙と倶楽部／上海邦人の花園 | 挿図:〈現今の上海バンド〉1枚 | 附図5頁 || 上海の沿革／上海港／上海と楊子江／上海と棉花と黄道婆／上海と倭寇／上海小誌／上海見物／共同租界の沿革／人口／市街の概況／佛租界／閘北／南市／浦東／吳淞／気候／衛生／行政; 領事団及び領事館／共同租界工部局／共同租界工部局警察／税目／共同租界工部局一九二六年度歳出入予算／佛租界工部局／佛租界巡捕房／佛租界工部局一九二六年度歳出入予算／会審衙門／佛租界会審衙門／監獄／公共事業; 上海義勇団／共同租界消防隊／佛租界消防隊／租界外消防隊／音楽隊／学校及教育機関／上海の基督教及び青年会／博物院／図書館／公園及び運動場／水浴場／小菜場(市場)／電燈, 電力及び瓦斯／水道(自來水)／陸上交通; 滬寧鉄道／滬杭甬鉄道／電車／乗合自動車／自動車／馬車／人力車／自転車／小車／轎子／電報／支那郵便／電話／水上交通; 外洋航路／北支那航路／南支那航路／長江航路／内河航路／近海航路／棧橋／信号塔／上海潮水満水表／商工業; 貿易上に於ける上海の地位／上海の金融機関／上海造幣廠／旧来の金融機関／質舗／金融日報／為替／ゴールドバー／保険／買弁／支那商店事情／支那商標法／商事団体／交易所／上海の度量衡／上海の会社商店の多き所在地／工業／上海労働者組合／官公所, 倶楽部, 医院, 教会; タウンホール／税関／江南機器局／支那諸官署及諸公会／商業會議所／棉花水気検査所／上海倶楽部／各国諸倶楽部及諸協会／病医院／寺院, 廟, 教会／雑部; 英字新聞／支那新聞／英文雑誌／支那

雑誌／旅館(ホテル, 客棧)／カフェー／劇場及活動写真／支那劇／名所古蹟及遊樂地／上海事情；支那料理／蟹(醉蟹)／宴席／拳／老酒(紹興酒)／西瓜子と南瓜子／良郷栗子と銀杏／上海の花柳界／競馬／麻雀／看板(招牌)／字号(屋号)／商標／銀樓／土産物／借家に就て(召租)／煙草／阿片の話／老虎竈／上海の賊の種類／擦白党／ボーイ, 阿媽, 乳母／人力車(黃包車)／お祭／結婚制度／蓄妾／上海で名高い色々なもの／乞食／支那棺と墓地／上海の歳時記／指算／旅行免状(護照) Ⅱ 邦人案内70頁；官衙及公共事業／学校／新聞雑誌及刊行物／商事／色々の会及び俱樂部／神社と花園／旅館と下宿屋／料理屋, 芸妓及び乙種芸妓, 葬儀社, 日清貿易研究所の当時／明治廿三年の日本郵船会社／上海租界道路名6頁

* 「はしがき」：「本書は大正二年一月島津四十起氏により上梓されて以来, 歳を閲すること十五星霜, 版を重ねること十回に及んだものでありまして, 此長年月間に於ける上海の変遷は誠に驚くべきものであると同時に本書の内容も改版毎に著しき更改を加へられ, 殊に最近の数版に至りては各方面の識者に質して万般の精確なる事情を網羅し, 大上海を紹介するに唯一の良書として許されて居たのであります。然るに大正十三年五月発行に係る第十版〔☆「I-31」〕は日進月歩の上海の今日の実情に照すとき, 既に過去に属する事実の存し新に発生せし事実の載すべきもの多々あることを認めまして, 先般発行者〔☆杉江房造〕が島津氏より著作発行一切の権利を継承致

しました機会に内容の大刷新を企て, 「上海共同租界法規全書」〔☆「I-48」〕の編者山崎後月〔☆九市〕氏を煩して各般の調査修正を遂げ, 複雑極まる上海の事情を如実にして茲に第十一版を公にする次第であります」。

59. 青天白日旗下の上海

中和印刷所(上海乍浦路276)

昭和2年6月3日

四六倍版 横仮綴 28頁

銀1弗50仙

[注1]: 「印刷人は」山本政治郎(上海北四川路鴻慶坊1037)。

◆写真集；帝国軍艦川内・二十五駆逐艇／矢田総領事植松指揮官の我警備線巡視／第一遣外艦隊司令官荒城少将・旗艦利根／邦人保護の重任を荷へる帝国陸戦隊の市中行軍／英吉利派遣軍の上陸・静安寺路競馬場／日本陸戦隊指揮官植松大佐・日本陸戦隊本部／山東軍の共産党反対ポスター・国民革命軍のポスター・山東軍の反蒋介石ポスター／国民革命軍の宣伝ポスター各種／呉淞砲台へ退却する山東軍(北站構内)・脱線の危計に遇ひたる北軍軍用列車／陸戦隊の防備・山東軍の便衣隊攻撃／三月二十一日から二十三日まで租界外宝山路一帯に於ける兵火の焼跡／山東軍と南軍便衣隊との交戦地に於ける兵火の跡／革命軍便衣隊の示威行列・山東軍戦死者の納棺／国民革命軍上海占領後に於ける熱狂せる罷業示威運動及大会(北四川路) 英国隊・米兵・上海義勇軍タンク／伊国兵・英国印度兵／ゼスフィールド公園内英兵の野営・英印度兵・瓦斯機関銃／バンド守備の英兵・

ガーデン橋守備の西班牙兵・仮兵舎と米兵／北
四川路日本小学校前・月の家花園に休息中の我陸
戦隊員・横浜橋附近に於ける支那人の身体検査／
上海日本義勇隊・英印度兵・伊国陸戦隊・工部局
電気処の守備兵／北河南路に於ける嚴重なる警
備・佛租界警備中の佛国兵・乍浦路橋上の英歩兵
／武装解除の一千四百名の山東兵は日本陸戦隊に
て満鉄碼頭へ／杭州よりの避難民上海着／共産党
が巢喰つてゐた宝山路の魔の家・宝山路東方図書
館に陣取つた総工会糾察隊員の教練／英国兵・米
国兵の警備／オデオン劇場一帯の家宅検査・大達
自動車店／第一遣外艦隊慰問使侍従武官小山田少
将の来着と觀兵式／上海帝国総領事館・矢田総領
事・花里警察署長

60. 時局と上海の労働風潮 第二

上海日本商業会議所

上海蘆澤印刷所印行

昭和2年8月30日

菊判 578頁 非売品

[注1]: 表紙に「マル秘」と印す。

◆目次10頁 || 時局と時事問題／大会と宣言、
標語、口号／上海総工会の報告書／反動分
子の取締／国民党と共産党の宣伝／其後の
労働風潮／労働問題に関する条例／時局と
労資問題／工部局の家屋税増徴問題／先付
莊票の問題／上海の各組織と章程条例／南
京政府と国民党の諸条例／財政上の各種条
例法規／不当課税と関税自主

[参考]: 『時局と上海の労働風潮 第一』
(昭和2年)は未見。

61. 上海の金融機関 [経済資料第13巻第9号]

南満洲鉄道株式会社

東亜経済調査局 (東京)

昭和2年9月1日

菊判 168頁 1円

[注1]: 「編輯兼発行人兼印刷人」は嘉治隆一。

[注2]: 委託販売所: 東京堂書店・中日文化協会
(大連)

◆目次2頁 || 総説／上海の銀行／上海の錢
莊 || 附録38頁: 財政表の解説／上海銀行公会章
程／上海銀行営業規程／上海錢業公会章程／上海
錢業営業規則／上海銀行公会臨時委員制 | 近著邦
文図書6頁／近著欧文図書4頁／新刊邦文雑誌重
要記事13頁／近著外国新聞雑誌重要記事6頁

[参考]: 『中支』(上海／経済)

『華中』(金融経済253)

◎ 实用上海語字引及訳

昭和2年9月12日

◇再版 (「I-84」) 奥付による。

<1928>

62. 企業地としての上海

大阪市役所産業部調査課

昭和3年2月13日

菊判 55頁 非売品

◆緒言／労働; 労働問題／労働賃金と生活費／
労働時間／女工及幼年工／土地及売買手続;
永租権／上海の租界／上海に於ける土地売買／永
租権の分割譲渡／上海租界の地価／附一: 地券の

発給／附二：永租権取得其他の諸費用／電力及燃料；電力／石炭／水；水質／水道料金／鑿井水／気温湿度降水量天候／税金；日本関係の税金／共同租界の税金／佛租界の税金／支那政府の税金

[参考1]：『中支』（上海／経済）『米澤』：「昭和三年初版，昭和六年改訂再版。上海への企業進出者のために労働条件，土地の永租及び売買手続，電力，燃料，水，気象，税金，建築費，工業関係法規等を解説す」。『華中』（産業交通労働164）（商業貿易213）：「大阪市産業部庶務課」。『言語』

[参考2]：→「I-86」

63. 支那漫談

村松梢風

騒人社書局（東京）

昭和3年5月15日

四六版 248頁 1円20銭 函

[注1]：「発行者」名義は村松義一。

[注2]：最終248頁は，白頁。

◆序2頁／目次4頁 Ⅱ 支那の社会相；乞食と残飯1-12／乞食の種々相／金持と貧乏人／宿命的支那／理想と現実36-40／上海風俗41-55；我不関焉／吊膀子／支那服／胸の電燈／南北調停論／江南の風物；風景の印象／建築／支那の庭園／市街の風景75-77／茶館／支那料理82-93／支那礼賛94-190；夢寐の郷国／支那の色／包黄車〔☆『上海』（「I-57」所収文を一部文言改訂）／歓楽の都／大世界・新世界—上海の民衆娯楽場／詩謎／暗黒の世界／上海の夜の女／棋盤街／祝儀／ラシヤメン（小説）—上海風景—／フランス租界の家／附録：朝鮮遊記

* 「序」：私はこれで支那に関する本を三冊出す。大正十二年の春初めて上海に遊んで帰つて『魔都』（「I-35」）を出し，それが病み付きで其の後数回彼地と往復するに及んで『上海』（「I-57」）を書き，今度は御覧の通り『支那漫談』とある。知ることの少くていかに語ることの多いか，我乍ら驚く。駄弁であり，贅文であることはもとより当然だ。／が，白状すると，私は支那が無闇に好きなのである。好きにも幾通りかあるが，私のは恋である。支那は私の恋人だ。恋人の事だから無闇に語りたがるのである。／或人曰く，君の支那礼賛もいゝが，左様に盲目的に心酔し，惑溺しては，真正の研究はできず，正鵠なる批評を失するであらうと。或ひは然らんだが，然し乍ら私は矢張り恋し惑溺して見なければ相手の真相は掴めないと思ふ。冷静なる観察が必ずしも真に触れてゐない。熱と愛とは常に理解の前の条件である。／〔☆中略〕／私は，烏澁がましい話だが，支那研究を今後生涯の仕事としたいと思つてゐる。それも私のは古典ではない現実の支那である。漢学といふものが一般人の生活から必然的に衰亡し忘れられて行く現在や将来に於ては，何物かそれに代つて，別の方面から支那を紹介する機関が生れて来なければ，やがて人々の支那に対する理解は皆無となるよりほかはない。さうして見れば，私のやうな浅学者の単なる現実描写の筆の仕事でも幾らか役に立つ時があるかも知れないと考へてゐるのである」。

[参考]:『言語』;和田博文「村松梢風—「他者」と出会うための旅」(p51):「日本で培われた感覚を尺度にして、中国文化を把握することを、村松は繰り返しいさめている。「支那料理」(『支那漫談』)では自分が、「単に自身の味覚と趣味性とを標準に」する、「短期の旅行者にすぎない」という自覚が語られる。「支那の庭園」(『支那漫談』)では、上海に到着した日本人画家たちの誰もが。「行李を提げてあたふたと蘇州を差して走つて行く」さまが揶揄される。彼らの行動は、「日本人の頭にこびり付いてゐる」「既成観念」に従ったものにすぎない。絵筆も既成の枠組みに収まる、見慣れた世界を反復するだけだろう」。

64. 上海ノ通貨 [支那経済研究第六編]

支那経済研究会

(九江路4号三井銀行上海支店内)

内山書店(北四川路魏盛里695)

昭和3年5月20日

菊判 120頁 図版 非売品

[注1]:「印刷所」は藤井印刷所(海寧路威四林街10号)。

◆口絵2頁; <馬蹄銀>・<銀弗>/ [土屋計左右] 序5頁/目次4頁 || 概説/両銀/墨銀及銀元 /上海兩と墨銀及銀元との対価/補助貨幣 /兌換券/莊票/上海に於ける通貨流通高 /上海幣制統一論/上海造幣廠問題/結論 || 附録10頁; 国幣条例/国幣条例施行細則/上海造幣廠借款契約/各地造幣廠鑄造銀元及小銀貨純比較表

*「序」:「凡そ一国の貨幣制度は其国経済組織の基礎を為す事情を研究せむ為には、

先づ其幣制の照明を第一義とす。支那経済事情が諸外国人に取りて、謎の如き感を抱かしむるは、其幣制の紛糾難解たる事が根底をなすものなり。而も従来支那貨幣制度を説きたる幾多出版者物の上梓を見たるも、何れも前人の著述其儘を踏襲して此国幣制混乱の事実と支那式解説とを記述せるに止り、読者をして常に隔靴搔痒の感を抱かしめ、所謂春を尋ねて春を得ざるの憾多し。／茲に於て乎、吾人は春は庭前一枝の梅花にありとの見地よりして、曩に当地通用貨幣一切を聚めて大阪造幣局に送付し、科学的分析試験を乞ひ、其成績報告を得たる機会に、上海の通貨一斑に関する実質的研究を同僚櫻井武夫、赤塚武雄両君に依頼したり。両君行務の余暇、調査と攻究とを重ねて、各種上海通貨の実体を比較解剖して、古来の仮想伝説より脱して、一切を具体的なる数字に依りて解説し、次で此得たる基礎に発足して、当地標準貨幣と、主なる各地開港場貨幣とのParityをも算定し、支那貨幣制度の実質的一斑を帰納せり」。

[参考]:『中支』(上海/経済)『華中』(金融経済 253)

65. 上海一覽

山崎九市

至誠堂新聞舗(上海閩行路85)

昭和3年6月3日4版

110×160 412頁 図版・表・地図

1円50銭

[注1]:山崎九市は「編纂者」。

[注2]:「発行者」は出光衛。

[注3]:「印刷所」は蘆澤印刷所(海寧路14)。上海の「売捌所」は、日本堂・東京堂・内山書店。

◆[矢田七太郎(上海総領事)]序2頁/[編者〔☆山崎九市〕]改編に就て2頁/目次10頁/口絵14頁|挿図:上海略図1枚||上海の概説/上海居留地/租界外市区/行政概観/警察裁判及び監獄/公共事業/教育機関/寺院及び教会/陸上交通機関/水路交通/通信機関/商工業/一般事情||附録27頁;蘇州/鎮江/南京/杭州/寧波|挿図;上海共同租界電車乗車賃表(一)(二)・滬寧鐵路発車時刻表・滬寧鐵路乗車賃表・滬杭甬鉄道発車時刻表

*「改編に就て」:「本書の前版は大正十三年至誠堂自ら編輯したもので、当時重宝なる紹介書として好評を得勿慌として三版を重ねた。併し「上海一覽」が斯の如く重版するを得たのは、一に上海に於ける邦人の急激なる発展と我が本国全体が上海を重要視するに至つたのによるものであると至誠堂主人は言つて居る。／そこで第四版は一層完璧にして読者に充分の満足を与へ得るものとしたいと云ふ希望で筆者に改編を嘱された訳である」。

[参考]:『中支』(上海/地誌):「訂正4版/昭和3/413頁」。『米澤』:「昭和元年上海至誠堂発行。著者は上海信託会社の取締役、後月と号し、俳句を作る」。

『華中』(一般案内8):「上海一覽/山崎九市/至誠堂/大正13年—昭和3/上述金風社〔☆島津長次郎『上海案内』〕及び日本堂発行の〔☆杉江房造〕「上海案内」

と大同小異である」。

66. 最近の上海 View of Shanghai

長澤虎雄

長澤写真館(上海乍浦路273)

昭和3年7月

四六倍版 横綴 銀2弗

[注1]:長澤虎雄は「撮影兼発行者」。

◆[長澤虎雄]最近の上海発行に際して1頁||写真集;(一)上海の鳥瞰/(二)各国領事館・(三)日本領事館/(四)日本人倶楽部/(五)バンド全景・(六)英国総領事館/(七)上海郵政総局/(八)東亜同文書院・(九)上海日本小学校/(十)パブリックガーデン/(一一)日支連絡船・(一二)租界の東端/(一三)上海の競馬/(一四)共同租界工部局・(一五)佛蘭西租界工部局/(一六)江海関/(一七)日本電信局・(一八)呉淞路/(一九)上海北站全景・(二〇)靶子路/(二一)虹口小菜場ホンキユーマーケット/(二二)会審衙門・(二三)虹口警察署/(二四)各国巡警/(二五)ガーデンブリツヂ/(二六)新公園(ホンキユーパーク)/(二七)佛蘭西公園/(二八)ゼスフィールド公園/(二九)倶楽部附属園・(三〇)ベビーガーデン/(三一)六三園と月廼家花園/(三二)上海の大百貨店/(三三)湖心亭・(三四)十六舗・(三五)城内/(三六)福州路=四馬路/(三七)乍浦路・(三八)無軌道電車・(三九)乗合自動車/(四〇)龍華の塔・(四一)ロバートハート氏銅像/(四二)平和の女神・(四三)パークス氏銅像・(四四)李鴻章氏銅像/(四五)黄浦江上の軍艦・(四六)郵船棧橋/(四七)徐家匯天文台・(四八)静安寺路/(四九)荷物船・

(五〇) 舢船・(五一) ジヤンク／(五二) 轎子・
 (五三) 小車・(五四) 水牛／(五五) おとむらい
 ／(五六) お嫁入り／(五七) 露店・(五八) 山
 車／(五九) 子供うり・(六〇) 乞食／(六一)
 木匠・(六二) シラミとり／(六三) 上海風俗

* 「最近の上海発行に際して」：これまで
 上海で発行された、支那殊に上海の風俗、
 人情、風景及名所古蹟の写真その他は唯単
 にその物を見せたと云ふに過ぎないのであ
 つて実地を見た人にも（見ない人は尚更の
 事）興味が少なかつたことを甚だ遺憾とし
 て出来得れば写真と相並んでその説明を詳
 にして未知の人へもよく理解が出来得るや
 うにといふ一つの小さい希望からして此の
 様な最近の写真なるものを発行することに
 なつたのです。

67. 血にさく花

池田桃川

日本堂書店（上海文路）

昭和3年8月3日

四六版 358頁 1円80銭

[注]：最終358頁は、白頁。

◆長編小説

[参考]：『新上海』（昭和7年6月15日）巻末の告
 告：『『日本及日本人評』支那の革命材料
 とした小説である花恥かしき乙女で主義
 のために斃れるもの鬼のやうなしかも情
 こまやかな淫売婦冷血鉄の如き将校岩を
 も貫くやうな意志をもつた若き革命家等
 様々なる人物を点出して千変万化局面を
 いろいろに変へてダイグイと描いて行く

稍荒つぽい肌ざわりであるが興味津々た
 る読物である」。なお、同広告では、価
 格を「1円」とする。

68. 一九二七年度上海を中心とする 支那の労働運動

二村光三

南満洲鉄道株式会社

昭和3年9月30日

菊判 195頁 表 非売品

[注1]：二村光三（南満洲鉄道株式会社社長室人
 事課）は「編輯兼発行人」。

[注2]：「印刷所」は満洲日報社印刷所。

[注3]：発行年月日を表紙では「昭和3年8月」
 とするが、ここでは奥付に従う。

◆凡例2頁／目次6頁 緒言／上海無産大衆
 組織運動の発展；上海手工總會の成立迄／上
 海店員總工会の成立と其活動／共同租界電車の総
 罷業其他／国民革命軍の誘導を目的とする
 罷業；上海第一次総罷業／上海第二次総罷業／
 其他の罷業／左翼勢力に対する弾圧；左翼勢
 力の伸張／工会連合会の設立／上海總工会の封鎖
 （クーデター）／対共クーデターと労働争議／右
 翼労働運動の進出；上海工会組織統一委員会
 の成立／労資調節に対する基本方針の確立／労資
 調節に関する条例の制定／国共両派の抗争；
 共産派の策動／五一労働記念大会／太平洋労働会
 議／第四次全国労働大会／右翼労働団体の全
 国的組織運動；上海工会組織統一委員会と広東
 總工会との提携／南京總工会の改造／南京労資仲
 裁会の成立／劳工紛争の仲裁策と上海労資調節機
 関の確立／右翼労働の動揺；工会組織統一委

員会の権威／共産党の工統会破壊の策動／労働争議と工統会／国共両党の分裂と労働界；分裂
当時に於ける労働界／分裂後に於ける総工会の運動方針／共産党の策動と労働争議／左翼労働運動の進出；左翼の進出と労働争議／左翼労働団体の復興／工人総会と工統会／江蘇省大暴動と上海の労働争議；暴動と上海に於ける罷業の開始／日本郵船会社碼頭倉庫苦力の罷業／上海共同租界電車の罷業／対露絶交と労働界；広東の暴動と対露絶交／時局と工統会／罷業禁止と共産党の対露絶交反対宣言／結言

*「凡例」(南滿洲鐵道株式會社社長室人事課員永野賀成)：本書は、一九二七年に於ける支那の労働運動が、如何様の進展をなしたるかに就て、特に上海地方を中心として之を歴史的に解説したものである。／本書の編纂に参照した資料は、上海日本商業會議所発行の「時局と上海の労働風潮」「經濟月報」及び会社発行の「調査時報」、其他新聞雑誌、竝に筆者自らが上海地方に於て蒐集した情報及び各刊行物等である。／本書の編纂に当つては橘樸氏竝に上海事務所伊地知重厚氏より多大の便宜を賜つた。

[参考]：『華中』(産業交通労働162)：「上海を中心とする支那の労働運動(1927年度)／満鉄社長室人事課」。

◎ 上海為替市場解説

昭和3年10月25日

◇再版(「I-70」)奥付による。

69. 支那研究第18号 上海研究号

東亜同文書院支那研究部

昭和3年12月30日

菊版 804頁 銀3弗・金3円

[注1]：「発行者」は清水董三。

[注2]：「印刷所」は蘆澤印刷所(海寧路14号)。

[注3]：目次は表紙に印刷されている。

[注4]：→「I-73」

◆[岡上梁(東亜同文書院副院長)]序1頁／口絵1頁 〓 [小竹文夫] 上海の沿革／[山田謙吉] 徐光啓附徐家匯天主堂／[馬場鍬太郎] 上海の地理及港湾設備並に氣候／[馬場鍬太郎] 上海の人口／[馬場鍬太郎] 上海の交通／[大谷孝太郎] 上海に於ける同郷団体及同業団体／[森澤磊五郎・林源三郎] 上海に於ける教育／[久保田正三] 上海に於ける企業組織／[久重福三郎] 上海に於ける金融事情／[穂積文雄] 上海に於ける取引所／[和田喜八] 上海に於ける保険事業の研究／[久重福三郎] 上海に於ける度量衡／[小竹文夫] 上海の貿易／[有本邦造] 支那固有の簿記法概説／[大谷孝太郎] バンド南京路の土地家屋經濟／[影山巍] 上海に於ける言語／[熊野正平] 上海に於ける言論及出版物／[彭阿木] 上海の売笑婦／[坂本義孝] 上海の将来／主要中国雑誌新聞記事索引

*「序」：「吾東亜同文書院滬上に開学せられしより既に三十年に垂んとし支那研究部創立せられしより恰も満十年に達せり。此間支那研究の各方面に対する部員の努力既

に大に見るべきものあり。然も書院所在地たる上海に就ての組織的研究に於ては従来勿論に附せられたる観あり、甚だ以て遺憾とせり。抑も上海の地たる支那最大の通商港にして又世界三大為替市場の一たり。又支那に於ける最大の租界にして特殊の性質を有せる国際的都市たり。其沿革現状の研究完成は中外の学界、実業界を裨益すること至大なる可きは疑を容れざる所、従来上海を題材とせる年鑑、目録、案内記の類坊間往々之れ無きに非ずと雖も前述の如き徹底有組織的研究に至つては未だ之を見ず。此れ我書院研究部の企つべき当然の任務たり。今茲に研究部創立満十年を記念して上海研究号を出すに至れり」。

〔参考〕：『米澤』：「昭和三年十二月東亜同文書院発行の雑誌「支那研究」の特輯号。同校教授総動員で執筆し、八百頁の大冊をなす。小竹文夫氏の「上海の沿革」、故山田謙吉氏の「徐光啓附徐家匯天主堂」、大谷孝太郎氏の「上海に於ける同郷団体及同業団体」其の他見るべきものが多い」。

『華中』（歴史地理105）

<1929>

70. 上海為替市場解説

濱田峰太郎

上海週報社（上海海寧路14号）

昭和4年1月25日再版

四六版 328頁

銀2弗50仙・金2円50銭

〔注1〕：川西武夫が「増補者」。

〔注2〕：版；昭和3年10月25日初版

〔注3〕：「発行者」は三村鉄之助、「印刷者」は蘆澤民治。なお発行者と印刷者は同一住所。

〔注4〕：「発売所」は、日本堂書店と大阪屋號（東京）。

◆〔土屋計左右〕序6頁／〔川西武夫〕序4頁／目次7頁 Ⅱ緒論／上海為替市場の平面的觀察；為替市場／標金市場／為替市場と標金市場との関係／上海為替市場の立体的解剖；為替売買の意味／為替売買の形式方法／為替相場の種類／為替相場の採算／投機業者の採算／大連筋の採算／実需筋の採算／相場を動かす要素：海外材料／実勢／思惑／金融上の変調／市場雑感；銀価は何故動く／上海の通貨／上海の金融事情／支那の輸出入金銀／支那の輸出入貿易状態／結論（投機筋の威力とその堅実味）Ⅱ附録2頁；組合銀行名及為替取引銀行一覧／為替仲買人組合員一覧

* 〔〔土屋計左右〕序〕：「老朋友濱田君は在支十年、恰も支那政治経済事情の変転極り無き時期に遭遇し殊に彼欧州大戦時に於ける銀価と物価の大狂乱に際しては親から各種交易所に出入して、売つた買つたの輸贏を決し、其間所謂七転八起、実に数奇の運命を経て来たが、今は上海日々新聞社の経済部主任として操觚界に納つて居る。／同君は過去に於ける是等悲喜交々の尊き経験を基礎として上海の諸経済事象の研究に没頭しつゝ、あつたが、過般同君の最も密接なる交渉を有し、而して在支邦人の何人も最も克く知らむと欲する当地金業交易所の実際より、為替市場全般に亘つて、極めて

平易なる解説書を上梓するの企画を樹て、同僚川西武夫君と相謀りて稿を起し、両君協力、忙中閑を偷みて推敲を重ねつゝ、今回漸く脱稿したるものが、此上海為替市場解説である。濱田君が過去に於て所謂 Gold Bar Man として、自身金業交易所に出入して得たる体験を経とし、川西君亦数年に亘つて私と机を並べて為替の実際売買に当り、抛て獲たる処の銀行内部より観たる諸相を緯とし、織出したる此一編は理論に偏せず実際に墮せず、書中為替投機業者の心理状態を初め専門家と雖参考とすべきもの極めて多く、就中此書の特色たる、何人にも一読平易に此紛糾錯雑せる上海為替市場の實際を識らしむる点は従来刊行せられたる教科書式余所行きの為替論と異り、読者の親しみを感じつゝ、吾事の如く充分了解せらるゝ事であらうと信ずる。

* 「[川西武夫] 序」: 「上海日、新聞社の経済部を担当される濱田峰太郎氏は約三年前私が三井銀行上海支店支配人席の一助手となつてからこのかたの畏友である。毎日私が為替市況を報告する為め氏と顔を合せては標金、為替は勿論の事話は銀塊相場から更に進んでは海外経済事情並に一般商況さては支那の時局や之に対する投機筋の気持、態度等と愉快的漫談に時間を過した事が少くない。／話は尤も雑談の程度を出ないのであるが然しそれでも是を一纏めにして見たら現在の錯綜紛糾してゐる大上海為替市場の組織や又比較的難解視されてゐる銀為替相場等が或程度迄容易く了解が出来

少くとも上海市場とは如何なるものであるかと云ふ概念位は得られるに違いないと云ふのが動機になつて先づ全氏が激務の余暇書き綴られたものに私が及ばず乍ら筆を加へて漸く生れ出たものが即ち本書である。

／第一章為替概念に対する極めて平易な解説に初まり第二章平面的に観たる為替市場組織第三章全組織運用の状態即ち為替取引の実状を詳述し次に為替相場変動に与かる諸事相及び簡單なる上海の経済事情を第六章結論として上海為替市場の偉大なる所以を述べてあるが本書に詳述してある解釈や採算方法は本当に濱田氏並に私一個の私見に過ぎないのであつて私の勤務してゐる三井銀行の夫とは何等の關係のない事を断つて置く」。

[参考]: 『中支』(上海/産業): 「昭和3」『華中』(金融経済256): 「昭和6」

71. 上海港

織岡芳太郎・深田菅治

内山書店(上海北四川路魏盛里695)

昭和4年2月25日

菊版 163頁 表・地図

[注1]: 奥付には、「著者」として織岡芳太郎名のみ記す。

[注2]: 印刷所は蘆澤印刷所(海寧路14号)。

[注3]: 定価記載なし。

◆ [織岡芳太郎(三井洋行上海支店受渡掛主任)はしがき1頁/目次9頁] 一、港灣編; 概説/港内事情/棧橋倉庫浮標其他/荷役能力及荷役用機關/其他の施設/二、貿易編; 貿易概況/税關/工業/海運/上海港に關係ある各種規定/上

海港々政組織及び港の將來 || 附録33頁；鉄舢料率表／陸揚荷渡賃船表／保管料率表・上海港出入外国及沿岸航路船舶隻数屯数及荷物積取高（1926, 7年度）／在上海各国商社数及在留人口数（1921-1927） | 挿図：上海港地図

* 「はしがき」：「上海港に関し詳述せし公刊の書籍として英文にては濬浦総局発行のPort of Shanghai あるも邦文にては満鉄社発行のもの（公刊にあらず）〔I-29〕ある丈けにて然かも之は容易に手に入れ難く自然従来当社訪問客に上海を紹介する上に遺憾なき能はざりしを以て先般来掛員諸君と共に諸種の方法蒐集に努め此程不完全ながらも漸く相当の材料を蒐め得たり。依て深田菅治君と共に之を一小冊子に編纂し印刷に附する事とせり。／尚東亞同文書院教授馬場敏太郎氏の御同意を得て過般同氏が上海日日新聞紙上にて発表せられし上海港に関する記事を抜粋し本書に転載せり」。

[参考]：『米澤』：「織岡芳太郎編／昭和四年三井物産上海支店刊。昭和十年改訂増補」。

『華中』（商業貿易218）：「上海の一般事情，特に港湾，関税，貿易を詳説す」。

72. 上海公共租界臨時法院問題

[支那国治外法権撤廃問題調査資料 第4輯]

外務省条約局第二課

昭和4年4月

菊判 152頁

非売品

[注1]：奥付なし。

[注1]：表紙に「マル秘」と印す。

◆目次 3頁 || 上海公共租界会審衙門ノ回収ト上海臨時法院設立ノ経過／上海公共租界臨時法院ノ組織及権限並其ノ運用状況／上海公共租界臨時法院ニ関スル諸係争問題 || 附録：甲，和文；上海公共租界会審衙門還付ニ関スル臨時協定及交換公文／一八六九年上海会審衙門規則（上海洋涇濱会審章程）訳文 | 英文（卷末ヨリ）77頁；上海公共租界会審衙門還付ニ関スル臨時協定（Provisional Agreement for the Rendition of the Shanghai Mixed Court, August 31, 1926. / 一八六九年上海会審衙門規則（Rules of 1869 for the Mixed Court at Shanghai）／一九一一年十一月十一日上海領事団告示（Notification of the Consular Body, November 11th 1911.）／上海公共租界会審衙門ト佛租界会審衙門トノ管轄ニ関スル仮規則（Provisional Rules for defining the respective Jurisdiction of the Mixed Courts of the International and French Settlements at Shanghai.）／上海会審衙門成文手続規則（The International Mixed Court of Shanghai, Rules of Procedure.）

73. 支那研究第19号 続上海研究号

東亞同文書院支那研究部

昭和4年5月21日

菊版 394頁 地図

非売品

[注1]：「発行者」は清水堇三。

[注2]：「印刷所」は蘆澤印刷所（海寧路14号）。

[注3]：目次は表紙に印刷。

◆ [古河邦彦] 上海共同租界法概観 / [馬場敏太郎] 上海特別市の行政 / [林源三郎]

上海居留民団／[大谷孝太郎] 上海に於ける同郷団体及び同業団体(承前)／[穂積文雄] 上海に於ける倉庫業／[清水堇三] 上海に於ける佛教団体／[小竹文夫] 上海の英国亜細亜学会北支那支会図書館／主要中国雑誌新聞記事索引Ⅱ「上海特別市区域図」1枚挿入

[参考]:『華中』(歴史地理106)

74. 支那人の生活と江南の風物

[海外風物叢書第5篇]

奥田正男

海外教育会(名古屋)

昭和4年11月5日

菊判 72頁 図版

50銭

[注1]:奥付上に「海外教育規約」あり。

◆序2頁/口絵:写真1頁/目次2頁/写真17頁
Ⅱ支那人の生活;新支那の風物1-4/国民性の根底/服装/飲食/住居/趣味より見たる支那人の好悪/江南の風物;茶館17-18/支那料理屋18-22/遊楽場23-28;芝居と活動写真/活動写真館/ジャズのダンスホール/グレーハウンドレース/競馬/南支の遊覧:上海29/上海の概観29-30/租界行政30-31/蘇州/杭州/南京/鎮江/支那雑話;南京の表裏/蒋介石と金蔓/ジャズの都40-44/ロシヤ人,黄包車,乞食45-49/謎の黄浦江49-53/恋を追ふ混血児54-61/燒路頭の夜/妻を売った男/支那を愛する者

*「序」:「明治四十四年の初夏,私は初めて上海に遊んだ。大陸支那,謎の支那の一

端が私の貧弱な脳裡にも薄ボンヤリと印象せられた。それから間もなく南洋にアフリカにオーストリアにと飛んだ。かくて長い歳月は流れた。こうしたなかにも支那人と云ふ人間はどうしても私の心よい印象から去らなかつた。再び支那に行つた。広東から広西へと,殆んど無銭旅行の苦痛を忍んで四川から河南,湖北,湖南へと奥地深へ行けば行く程,私の興味はそゝられた。以来日本から支那へ,支那から日本へと,支那の各地を放浪した。此間私の強き意識を喚起したものは,どうしても支那人と仲よくすること——これが現在も又将来にも日本及日本人として為さねばならぬ大切な事であると考へた。かくて私は此の実行運動として日華国民同志会を創立し次でこれを昭和三年末海外教育会と合併した本書は此の運動の為め幾分でも我同胞が支那を理解し最も通俗的に支那に対する智識を普及したいとの念願のもとに書いたものである。尚ほ本会の今日まであらしめた,その背後に深甚の御同情と後援を与へられ不徳微力の私をして御指導下さつた,櫻木俊一氏石本恵吉氏の両顧問と,この小冊子編纂の為め今夏渡支中多大の御芳情を寄せられた,代議士神田正雄氏,満鉄上海事務所榎田耕作氏,南京伍芳明氏,上海李翰民氏,長崎丸山内鶴重氏,上海吉田英次氏,常盤舎〔☆旅館:上海赫司克而路36号〕主人に厚く御礼を申上げる」。

*「新支那の風物」:「満鉄の参事や上海の居留民団長上海共同租界の行政委員をやつ

てゐられた会の顧問の櫻木俊一氏と出発の前夜一時頃迄も語り合つたとき。／「南京や蘇州よりも上海の研究が新しい支那の泉だネ……と云はれた。私も確かにそうだと信ずる私を乗せた長崎丸は今その上海に近づきつゝある」。

75. 上海夜話

井東 憲

平凡社（東京）

昭和4年12月1日

四六版 402頁

1円30銭 函

[注1]:「発行者」は下中弥三郎。

[注2]:「装幀」者は中島松二。

◆目次2頁 〓 白蘭花の殺人 3-23 / 恋の密輸入者 25-41 / 奇縁のマリさん 43-70 / 角を曲つた辻馬車 71-92 / 卒倒した美少女 93-106 / 贋造銀貨と支那娘 107-116 / 黒子を拘る話 117-126 / 道楽倶楽部の地下室 127-150 / 破れたシルクハット 151-178 / 国際的な失恋事件 179-196 / 没落倶楽部 197-214 / 海賊船の伊達男 215-239 / アジヤの恋人 241-310 / ハルビンの踊つ子（ハルピン夜話の一） / 秘密結社の婚約式（ハルピン夜話の二） / 情話中の怪盗（南京夜話の一） / 愛憎美少年記（南京夜話の二） 〓 平凡社大衆文学叢書目録 5頁

* 「平凡社大衆文学叢書目録」:「上海夜話 / 新刊 / ダンスホール, 浴場, ベッド, 裸女の交錯活躍する上海の裏面物語読者は魂

を擽られ体がムズムズして恍惚とならう」。

[参考1]: 影印本あり。『上海夜話』[リバイバル〈外地〉文学選集(第一回配本)第一巻](大空社, 1998年11月26日, 12,000円+税, 函, 山下武「解説『上海夜話』」6頁)

[参考2]: 上記山下武「解説『上海夜話』」(p2): 「井東憲はアナ系のプロレタリア作家として出発。その後ボルシェビキの陣営に属し当局のブラックリストに上がっていた。不穏分子と目された物カキが上海に逃れ、官憲の目をかすめてほとぼりが冷めたころ舞い戻る例は、当時珍しくなかった。梅原北明などはその手をよく用いたものである。上海で本を出版したかのように奥付を印刷。その実、内地で秘密出版した例もあったほどで、彼ほど国際都市・上海を巧みに利用した者もなかった。村松梢風も前後三度ほど上海へ渡っているが、彼の場合は南支の名優・緑牡丹を日本へ連れてくるためであったり、歓楽の都としての上海に惹かれた形での滞在であって、井東憲や梅原北明のごとく、革命運動や秘密結社が崇り日本を逃げ出したのとはいささか事情が異なる。 / 梢風の『上海』[☆I-57]の面白さは充分認めながらも、井東憲が「近代的な魔都の罪悪や享楽場や裏面に対する作者の深刻でない事」に不満を覚えた理由がそこにあった。そこらが梢風とプロレタリア作家・井東憲との立場のちがいであり、同じ魔都上海を描いても、井東憲の描写にはその深刻さにおいて、慄然、膚に粟を生ぜしむるものがある」。

[参考3]: 『中支』(江蘇省 / 文学・語学)『言語』(1930)

◎ 大上海

昭和5年1月

◇再版(「I-79」)奥付による。

76. 増補 実用上海語

王廷珪

上海美術工藝製版所出版部

(上海北四川路祥豊里)

昭和5年3月20日6版

100×146 226頁 大洋1元2角

[注1]:「発行兼印刷者」は小林榮居。

「印刷所」は、呉永昌印刷局(上海南市外鹹瓜街)。

[注2]:→初版(「I-15」)

◆[藤村義朗]序〔☆漢文〕2頁/[王廷珪]序; 華文2頁・日文2頁/目録5頁/五声図1頁|| 散語部<30課>; 数日類/人事類/時日類/船車類/地名類/国名類/郵電類/売買類/穀物類/食品類/器具類/店舗類/門答部<30課>

*王廷珪「序」:「日月ノ経ツノハ誠ニ早イモノデ此実用上海語モ発行以来最早六年ノ星霜ヲ閱シマシタカ例ヘハ租界内ニ於テハ道路ノ改良サレタ事宏壮ナ建築物ガ沢山出来タ事人口ガ急激ニ増加セシ事等ハ其最モ著シイモノテス斯様ニ六年前ト比較シテ一切ノ事情ニ大変化ガ有リマシタ就テハ此ノ上海語読本モ自然改訂ノ必要ヲ感ズル事切実デアリマシタニ因ツテ先頃来朝夕ノ暇ヲ儉ンデ上海生活ニ緊要適切ナ言葉ヲ蒐集シ従来ノ内容ヲ補足スルト共ニ新ニ散語及会話ヲ十課宛増加シテ改版スル事ニ致シマシ

タ」。

77. 赤い魔窟と血の旗

井東 憲

世界の動き社(東京市)

昭和5年4月15日

四六版 274頁 1円

[注]:「装幀」者は中島松二。

◆目次1頁|| スパイの首5-24/宣伝戦線25-66/市街戦真最中67-108/赤い魔窟109-149/血の旗151-195/『左』『右』の陰謀197-273

[参考1]:『言語』

[参考2]:影印本あり。『赤い魔窟と血の旗』[リバイバル(外地)文学選集(第二回配本)第十三卷](大空社,2000年10月28日,9,000円+税,函,末永昭二「解説『赤い魔窟と血の旗』」6頁)

[参考3]:上記末永昭二「解説『赤い魔窟と血の旗』」(p1-2):「本書は、昭和五(一九三〇)年一月、左翼系の総合雑誌を目指して創刊された『世界の動き』誌の版元である世界の動き社が、郡司次郎正、村山知義、和田軌一郎の著書に続いて刊行したものである。鳴物入りの新人の話題作、プロレタリア演劇の大物の戯曲、革命成ったロシアへの誘いという三冊を受けて、今度は「支那」の時局小説とは、世界の動き社もなかなか考えた出版計画を立てていたようだ。……しかし、魅力的な単行本ラインナップにもかかわらず、同社は短命に終わったようだ。昭和五年という時期から考えても、この種の左翼系雑誌社が長く続いたとは考えにくい。/一九二一(大正十)年に創立された中国共産党に対する蒋介石の反共クー

デタ（一九二七（昭和二）年四月十二日）のさまざまな場面を切り取った短編を集めたのが本書である」。

78. 上海人物印象記 第一集

澤村幸夫

東亜研究会（東京府）

昭和5年7月15日

四六版 58頁

50銭

[注]：「編輯兼発行者」は磯部栄一。

◆口絵：写真13頁／（序）1頁／内容2頁 章炳麟・胡適／蔡元培／居正・鍾明志／張元濟／王一亭／張群／狄葆賢／葉楚信／陳中孚／郁達夫／王孝英／楊度／張資平／蔣方震／錢瘦鉄・韓秀／薩鎮冰／葉恭綽

*「(序)」：「上海人物印象記——第一集は、昭和四年六月末、大阪毎日新聞特派員として久しぶりに上海の地に来た時から、翌年四月までに、私が親しく接触した支那人士について、忘備的に私録せるもの、一部である」。

[参考1]：『米澤』『華中』（歴史地理109）『言語』：「八月」

[参考2]：→「I-88」

79. 上海繁昌記 三巻

昭和5年9月

線装本三冊 秩入 300部

◆「『上海本』蒐録（1）所載《追補》[I-1]の復刻本

*「上海繁昌記解説」：「本書ハ明治十一年五月頃ソノ当時東部繁昌記（寺門静軒著）同類似品ノ刊行アリタル第四編ヲ訓点翻刻サレタルモノナリ／原本滬游雜記ハ光緒二年（明治九年）葛理斎嘯園ノ著書ニシテ四編ヨリナル，著者ハ同治年間（文久二年）已ニ上海ニアリ本書ハ其間約十五年間ノ上海見聞記トモ見ルベシ／原本第一編ニハ当時ノ租界略地図ニ葉及外国々旗図ヲ有スルモ繁昌記ニハ省カレ別ニ安養志山ノ黄浦江及公園橋絵画ヲ添付サレ居ナリ」。

[参考1]：『華中』（歴史地理55）：「佐々木大助氏は昭和五年三百部を限定影印した」。

[参考2]：『和刻本漢籍隨筆集 第14集』（汲古書院，昭和52年7月）所収，長澤規矩也「解題（上海繁昌記（滬游雜記）三巻清葛元撰 藤堂良駿点 明治十一年東京稲田佐吉刊中三冊）」：「本書には昭和五年の影印本があり，解説一葉を挿入するが，この本の編刊の事情については，真を伝えてゐない」。

80. 上海風俗

佐藤成夫

昭和5年9月

長澤写真館（上海呉淞路54号）

四六倍版 横綴

1 弗80仙

[注1]：佐藤成夫は「撮影者」。

[注2]：「発行者」は長澤虎雄。

[注3]：「印刷社」は，錦明玻璃版印刷所（上海同孚路柏德里684号）。

◆写真集；上海巡警／ばくち場；競犬場・ハイアライ・ベロドラマ／交通機関／ワンタン屋・水くわい屋／路傍スナツプ／店舗と裝飾／一杯屋／

米屋／細工品／質屋・酒屋・雑貨屋／近代の支那の女性／豚／苦力／街頭の物売／賭博／ソーナン屋・ツウエ屋／婚儀／路傍易者／市場／飢饉と貧民／乗物／小車／街頭スナップ／裁判／手品師と物売／民船／支那兵／演劇／阿片と女／街のスナップ／物売／葬儀／農業／纏足と爪／貨幣／支那の風物

81. 大上海

佐藤成夫

昭和5年9月再版

長澤写真館(上海呉淞路54号)

四六倍版 横綴

1 弗80仙

[注1]:佐藤成夫は「撮影者」。

[注2]:「発行者」は長澤虎雄。

[注3]:「印刷社」は、錦明玻璃版印刷所(上海同孚路柏德里684号)。

◆写真集;バンド全景/大日本帝国総領事館/上海郵政総局/サツスンハウス・税関/ロバート氏銅像・平和の女神・パークス氏銅像/青蓮閣商場・四馬路/ガーデンブリッチ虹口消防署・共同租界工部局/日支連絡船・楊樹浦/バンド入口・ベビーガーデン/公共公園/新公園入口・滬上神社/黄浦江/日本人俱樂部/仏蘭西領事館・仏租界バンド/日本陸戦隊本部/競犬場・上海の競馬/南京路/銀行/六三園/ゼスフィールド公園/虹口マーケット/上海北站・上海南駅/邦人経営の学校/虹口/主なる邦人会社/湖心亭/龍華の塔・龍華寺/夜の南京路/呉淞路/新公園/主なる活動写真館/老西門通り・福建路/交渉公署・平和記念祭

◎ 支那から手を引け

昭和5年11月15日

◇再版(「I-82」)奥付による。

82. 支那から手を引け [新作長篇小説選集]

前田河廣一郎

日本評論社(東京)

昭和5年11月25日再版

四六版 255頁 50銭

◆口絵1頁:著者写真/序3頁/目次3頁||長編小説

*「序」:「一九三〇年、三-四月に亘つて、再び里村と私とは、『仮面』を中心として、三四回の打合はせを行なつた。その結果、新しくスタートする意味で、里村は多くの参考書類を携へて歸つた。/いづれの場合にあつても、本来のテーマは、北伐革命軍上海入城前後の支那革命の轉換の動機にあつた。が、小説はテーマだけで書けるものではない。我々は、もつと日本の無産大衆にわかりいいやう、支那革命に理解を持つやうに、生きた具体的事実と芸術的表現とから出發しなければならない。六月までに、里村は、百枚ほどの原稿を書いた。そして、その大部分は再懇談の結果訂正されなければならなかつた。七月上旬、同志里村は、必要以上に物議を醸した代作問題の喧しい折柄、遂に私との合作を断念する旨を通知して來た。しかし、私は如上の経過を見ても、この小説が『代作』でないことを知悉

してゐるから、みすみす里村欣三君の努力を、一時的な風説の下に葬り去ることを潔しとしなかつた。／そこで、この小説の最初五六十枚の彼れの書き出しに加へるに、満洲放浪時代の同君の悲痛な経験を取入れて、その他は全部新しく私が書き足すといふことにして、合作の意義を全ふすることに決意した」。

[参考]：『言語』

83. 上海どん底風景 [誠文堂十銭文庫]

古川一郎

誠文堂 (東京)

昭和 5 年 12 月 10 日

三五版 102 頁 10 銭

◆口絵：写真 6 頁／ [誠文堂主小川菊松] 発刊の辞 2 頁／序 1 頁／目次 2 頁 || 上海どん底風景；どん底の性格／野雞／黄包車／ダンスホール／強盗団／警察権／金銭について／悠長風景／ブル階級風景；第三夫人の享樂／秘密倶楽部／彼等の二十四時間／泥棒市場奇談／戦慄すべき蚤の殺人事件

* 「序」：「此の一冊は全部上海が取材であるが、作者の目的は「上海どん底風景」である。今迄の上海に関する著作と云へば、余りにも、エロ、グロの方面のみで、どん底を知つて置く事が可成重大であると思つたのでペンを取つて見たのである。／「ブル階級風景」は「上海どん底風景」の対照である。／「泥棒市場奇談」及び「戦慄すべき蚤の殺人事件」は、上海の断片を物語

る猟奇の実話である」。

[参考]：『言語』：「十一月，八甲田文彦」

<1931>

84. 实用上海語字引及訳

王廷珪

上海美術工藝製版社出版部

(吳淞路大興里)

昭和 6 年 5 月 1 日再版

菊半截版 150 頁

[注 1]：「発行兼印刷者」は小林榮居。

「印刷所」は蘆澤印所 (海寧路 14 号)。

[注 2]：版；昭和 2 年 9 月 12 日初版

◆ [矢田七太郎] 題字／自序 2 頁／例言 2 頁 || 字引

* 「自序」：「实用上海語読本〔☆「I-76」〕上梓後、直チニ其訳書及発音字引ヲ刊行シ、滬語修学者ノ為メニ便セント欲スル事多年、然カモ用務紛繁ニシテ専念之ニ従事スル事能ハズ僅カニ朝夕間ヲ偷ミ初志ノ達成ニ努力シ来リタルガ殊ニ発音字引ニ至ツテハ搜字註音等ニ最モ困難ヲ感ジ、博咨周訪屢々原稿ヲ革メ遂ニ星霜八閱漸ク今日之ヲ完成スルヲ得タリ、蓋シ北京官話註音字彙ノ如キハ市上既ニ流布ノ数ニ乏シカラズト雖モ上海語発音字引ニ於テ実ニ本書ヲ以テ嚆矢トスルガ故ナリ」。

* 「例言」：「本字引ハ实用上海語読本中ノ文字ヲ網羅シタル外他ノ上海語読本ニアル必要ナル文字ヲモ採用シ編輯セルモノニテ凡合計千八百文字ヲ載セタリ」。

る。『華中』(歴史地理110)

85. 上海風土記

澤村幸夫

上海日報社(白保羅3,4号)

昭和6年5月20日

四六版 145頁 1弗20仙 函

[注1]:澤村幸夫の住所は、「文路119号」。

[注2]:「発行者」は奥宮正澄。

[注3]:「印刷所」は蘆澤印刷所。

◆口絵2頁;『申江勝景図』に描かれた東洋茶楼の図/序2頁/目次5頁||上海名所図絵/上海繁昌記/光緒初年の上海案内/上海名物誌/逆縁の恩人『倭寇』/東洋戯劇/江南の夏/江南の秋/味覚の天国/支那人李鴻章/人間孫文/右派左派反蔣派/振はざる学界/創造社顛末/女流作家の群/学校劇運動/大学皇后/上海の『初鯉』一鮒魚/衰へ行く刺繍/文壇恐怖時代/支那大学生気質/三種の学校騒動/李秋君・関紫蘭・土偶乗馬美人/支那洋画家の群/唐紹儀・章炳麟/徐家匯と徐文定公

*「序」:「上海風土記は、もともと出版するのを目的に書かれたのではない。内地に病気をしてゐて、しきりに上海に来たがつてゐた私の兎等のために、昭和四年の夏以来、をりをり書送つた通信と、新聞社のために語り、もしくは書いたものとを、上海日報のすゝめによつて、一つの小冊子としたものに過ぎぬ」。

[参考]:『米澤』:「上海初期の在留邦人、上海の風物、支那文壇、学界の消息其の他を巧みな筆致で紹介し、情趣豊かな書であ

86. 改訂 企業地としての上海

[貿易経済叢書第39輯]

大阪市役所産業部調査課

昭和6年6月15日

菊判 121頁 非売品

[注]:表紙裏に「改訂版序文」あり。

◆目次3頁||緒論/労働;労働問題/労働者の数及び種別/労働者の賃金及び生活費/労働時間及び休日/土地及び売買手続;永租権/上海租界の性質/上海に於ける土地売買/永租権の分割譲渡/上海租界の地価/附一:地券の発給/附二:永租権取得其他の諸費用/電力及び燃料;電力/瓦斯/石炭/重油/水;水質/水道料金/鑿井水/気象;気温/湿度/降雨量/天候/税金;日本関係の税金/共同租界の税金/佛租界の税金/支那政府の税金/建築に関する参考事項/中華民國の工場に関する諸法規;工場法/同施工条例/工会法/同施工法/団体協約法/労働争議処理法

*「改訂版序文」:「最近に於ける対支貿易は銀価未曾有の惨落の結果、著しく採算困難となつたが、一方世界的不況の影響から深刻なる不況裏に呻吟しつゝある我国の商工業は、その持ちあぐめる過剰生産の捌け口を如何にもして支那市場に求めねばならぬ矛盾を解決する為め、遂にダンピングの方法を採らざるを得なくなつた。然るに一九三一年一月一日支那自主関税の実施とそれに続く外国品のダンピングに対する取

締条例公布とはその「ダンピングの採算」をすら不可能にするに至らんとして居り、銀価は益々下落する一方であり、国民政府の輸入品に対する防遏手段は愈々峻烈の度を加へて来た。茲に於て採らるべき途は只資本輸出を措いて外にない。資本は如何なる障壁をも乗り超へて進む。日本及び欧米工業資本化にして逸早くこの弁法に着眼し、既に工場を支那に新設し又はその計画にあるもの、一九三〇年後半期より一九三一年初め迄の短期間に数十件の多きを数ふる状態であり、その大多数が上海に集中されて居る。本書第一版〔☆「I-62」〕は在支企業の寧ろ不安時代に出版されたものであるが、今支那に対する第二次資本輸出時代とも云ふべき時機に当つて、之が改訂版を上梓するは有意義のことなりと信ずる」。

[参考]:『中支』(上海/産業)『米澤』『華中』(産業交通労働164)

87. 瀛滬雙舌

林 通世

日本堂書店 (上海文路227)

昭和 6 年 7 月 1 日 14 版

三六版 113 頁 表 大洋 5 角

[注 1]:「版」:大正 3 年 1 月 10 日初版/昭和 3 年 4 月 5 日 10 版/昭和 4 年 8 月 15 日 11 版/昭和 5 年 2 月 27 日 12 版/昭和 5 年 9 月 5 日 13 版/昭和 6 年 7 月 1 日 14 版

[注 2]:「発行者」は杉江房造。

[注 3]:「印刷所」は蘆澤印刷所。

◆ [静海航空] 題瀛滬雙舌 (華文) 1 頁/ [六々

居士] 瀛滬雙舌自序 (華文) 1 頁/凡例 1 頁/日本五十音図・濁音図・半濁音図・撥音図・促音図・拗音図・長音図 4 頁/目次 4 頁 || 本文 37 課

[参考]:『華中』(言語 348)

88. 上海人物印象記 第二集

澤村幸夫

東亜研究会 (東京府)

昭和 6 年 9 月 1 日

四六版 73 頁 50 銭

[注 1]:澤村幸夫は、大阪毎日新聞上海支局長。

[注 2]:「編輯兼発行者」は磯部栄一。

[注 3]:「発売所」は栗田書店。

◆口絵:写真 9 頁/ (序) 1 頁/内容 2 頁 || 馬良/周建人/王正廷/孫宝琦/孫洪伊/張公権/夏奇峰/黄白薇/張竹平/鄭貞文/関紫蘭/王道源/田桐/李秋君/王家楨/宋子文

* 「(序)」:「上海人物印象記-第二集は、第一集を脱稿した後、昭和五年四月から、六年五月にいたる一年間に、上海で合つた男女十余人に関する印象記で、これが公刊にあつては、第一集と同じく、一人毎に若干の行数をカットせざるを得なかつた。以前に合つた王正廷氏と、すでに亡くなつた孫宝琦、田桐の二氏も特に収めた」。

[参考]:『米澤』『華中』(歴史地理 109)

89. 『犯罪科学』第 2 卷第 11 号 [上海研究号]

武俠社 (東京)

昭和 6 年 10 月 1 日

菊判 368 頁 図版 75 銭

◆目次／グラフ：上海特輯40頁；黄包車／バンド
 全景／野鷄／看板／質屋・質札／手配揭示版／跳
 無場／長三堂子／戎克／舢船／野鷄／苦力／タイ
 ム・ボール・タワー／平和記念塔／印度人巡捕／
 支那巡捕・監獄／南京路／永安公司／先施公司／
 新々公司／大世界／城内と仏租界との境の鉄門、
 鉄条網・共同租界と支那町との間の鉄門／貧民／
 水上生活者／乞食／競犬場／賭博場回力球(HAI-
 ALAI)／ルナパークの蚤の曲芸 || [上海晶報余
 洵] 題字153／[新居格] 上海の散警154-
 160／すべては芸術のために！160／ルナパ
 ークのミス・テリー161／[後藤朝太郎]
 逆行線に輝く上海の魔港162-185／[(在
 上海)坂田寛三] 上海の賭博場と賭博186
 -197／[(在上海)香夢生] 上海の不良少
 年と少女と198-201／[(在上海)桃谷文治]
 降妖捉快の張天師202-204／[華漢] 長白
 山千年の白狐205-213／[(在上海)土田
 広一] 上海の夜の女の解剖(主として野鷄
 に関して)214-228／[冷心] 或る恐ろし
 き陰謀229-233／[吉行エイスケ] 上海、
 肉体の街、その香料(レビュー風な随筆)
 234-241／[(在上海)三木幸夫] 迷宮に
 入らんとする宋財政部長狙撃事件242-216
 ／[尾崎士郎] 僕の街・シャンハイ247-
 253／[濱野眞] 接嬰所254-259／[永見
 徳太郎] 長崎県上海260-271／[雅川滉]
 上海を滑走する272-277／[(在上海)濱
 田峰太郎] 密輸に絡まる犯罪秘話278-285
 ／[南方八郎] Z園の女魁286-293／[鉄
 村大二] 白蘭花は匂ふ294-303／[井東憲]
 怪殺クラブ304-315／[田中忠夫] 支那婦

人と階級的政治犯-支那革命と婦人闘士-
 316-323／[大橋俊男] 黄包車の話324-
 328／[(在上海)吉田由三] 阿片と阿片窟
 の話329-338／[井上紅梅] 上海掏摸とゆ
 すり誘拐談329-344／明園345／[大林喬
 太郎] 上海の質屋346-347／[(在上海)
 大橋対子] 怪賭博『花会』の怪348-354／
 [加藤信行] 競馬・競犬・ハイアラキ355-
 364／上海案内記365-367 || 編輯雜記368

*「上海案内記」(p367):「最後に上海に
 関する参考書を挙げる。／支那研究(第
 十八号-上海研究号)[☆I-69]／上海の
 一考察(社会悪に就きて)彭阿木「東亜同
 文書院創立三十週年記念論文集」所載／上
 海風土記[☆I-83]／上海百話[☆I
 -49]／続上海百話[☆I-25]／上海一
 覧[☆I-33]／SHANGHAI(A HANDBOOK
 FOR TRAVELLERS AND RESIDENTS)
 BY C.E.DARWENT

*「編輯雜記」:「[今田謹吾] 十月号の上
 海研究は御覧の通り近来雑誌界の特異の出
 現だ。／上海から鉄村君が撮つて来た写真
 が六百枚、その他参考品だけでも大きなト
 ランクに四つ。と云ふ大した土産だ。残念
 な事には、その写真が全部公表出来ると
 いふのだが、とてもそれは今の法律では許
 されない。いや公表の出来るものでも、あ
 まり数が沢山なので限られた紙上ではそれ
 も不可能なので、と云つてもみられないの
 で、近々展覧会でもやつて、読者に御覧に
 入れやうかとも思つてゐる。／執筆者も、

上海に旅した日本文壇人と、現在上海に在住の文人と中華作家、それにそれらを結びつける役を鉄村君がやつてくれた。／これまで本号の如くあらゆる角度から上海の本質をつかんだ文献は初めてだと云つてよい。／鉄村君の話によると、支那人は写真を撮る事を迷信的に嫌ふので秘密に撮るためのトリックに苦心したとのこと。／『或る恐ろしき陰謀』の作者冷心君と『長白山千年の白狐』の華漢君は現代支那文壇の新進作家で本誌の為に寄稿して下さった事を感謝したい。／[鉄村大二] 澤村幸夫, 余大雄, 鈴木剛, 濱野眞, 坂田寛三, 汪国標, 内山完造, 鄭君平の諸氏に, 上海滞在中一方ならぬ御指導御助力をいたゞいたことを, 厚く御礼申し上げます。

II. 上海小冊子 (紀要・報告書等)

<1928>

7. 東亜同文書院一覽

東亜同文書院 (上海徐家匯虹橋路第100号)

昭和3年5月

折本パンフレット 図版・地図

非売品

◆概況／沿革概要／東亜同文会／書院職員／敷地及建物／図書／学生支給品／入学資格／修業年限及定員／学資／学科課程表／日本学生及卒業生府県別表／中華学生部／中華学生及卒業生省別表／商品室陳列品点数／寄宿舍及学生会館／学友会／病院／昭

和三年度学生支那内地調査修学旅行予定線／支那研究部事業概要／卒業生概要／東亜同文書院平面略図／写真12葉

8. 上海航路案内 上海へ

日本郵船株式会社

昭和3年6月10日3版

折本パンフレット 図版・表・地図

非売品

[注]:「版」;大正13年3月初版〔☆II-4〕

◆上海航路案内;／上海へ／日支連絡船／地／御乗船案内;支那パンフレットの刊行と発売 | 挿図;地図4枚／写真8葉

*「支那パンフレットの刊行と発売」:「当社は日支親善の実を挙ぐる積極的手段として、支那通として令名ある文学士後藤朝太郎氏に委嘱して支那百般の事物中実益と趣味ある諸問題を極めて通俗的に解説したる小冊子を成るに従ひ刊行して実費発売を企て其第一輯「日本より支那へ」第二輯「歡樂の支那」第三輯「支那の田舎めぐり」第四輯「長久の支那」第五輯「不老長生」第六輯「老朋友」は既に発行され、全国主要各書店に於て一冊五十銭で発売中でありませす。四六版百頁内外の書物で携帯に便に、装幀も瀟洒です」。

<1929>

9. 東亜同文書院一覽

東亜同文書院 (上海徐家匯虹橋路第100号)

昭和4年5月

折本パンフレット 図版・表

非売品

◆概況／沿革概要／東亜同文会／書院職員
／敷地及建物／図書／入学資格／修業年限
及定員／学資／学科課程表／日本学生及卒
業生府県別表／中華学生部／中華学生及卒
業生省別表／商品室陳列品点数／寄宿舍及
ビ学生会館／学友会／病院／昭和四年度学
生支那内地調査修学旅行予定線／支那研究
部事業概要／卒業生概要／写真13葉

<1930>

10. 上海航路案内

日本郵船株式会社

昭和5年10月改訂4版

折本パンフレット 図版・表・地図

非売品

◆日本郵船上海航路案内；中国と日本／日華
交通の今昔／上海へ／上海／南支の遊覧地／郵船
の上海航路／日華連絡快速船／日本諸港上海間乗
船運賃／御乗船案内 | 挿図：地図5枚／写真24葉

III. 上海地図

<1930>

13. 上海新地図 25000分の1

THE NEW MAP OF SHANGHAI (1930)

杉江房造

上海日本堂書店

昭和5年3月25日

袋入

◆「上海全景」を附す。

[参考]:『中支』(上海/地誌)

IV. 上海関連本

<1927>

35. 支那は動く・支那を見よ

長野 朗

ジャパン・タイムズ出版部(東京)

昭和2年2月5日

四六版 342頁 2円 函

◆附録:何一公作「排外新劇 上海騒動【三
幕物】」訳39頁

◎ 支那印象記

昭和2年4月15日

◇再版(「II-37」)奥付による。

36. 長江流域の労働運動

本田英三郎編輯

日刊支那事情社(東京)

昭和2年4月23日

四六版 175頁 50銭

◆上海地方労働運動の梗概62-122

37. 支那印象記

竹内 逸

中央美術社(東京)

昭和2年5月20日再版

四六版 356頁 2円80銭

◆上海記15-109

<1928>

◎ 支那経済地理制度全編

昭和5年1月15日

◇再版(「II-38」)奥付による。

38. 支那経済地理制度全編

馬場鍬太郎

禹域学会

昭和3年1月20日再版

菊版 1464頁 銀5弗50仙 函

◆上海会審公庁642-658/仏国専管居留地
会審衙門659/会審衙門の回収660-666

<1929>

39. 支那革命の第一段階

—広東から上海へ第一部—

アジアカス/別府重夫訳

上野書店(東京)

昭和4年3月18日

四六版 236頁 80銭

◆一九二五年五月三十日の虐殺事件とそれ
に続く上海10-29/上海義勇隊203-208

40. 支那革命に於ける農業革命の躍進

—広東から上海へ第二部—

アジアカス/別府重夫訳

上野書店(東京)

昭和4年4月15日

四六版 1356頁 60銭

◆上海評議会の宣戦布告270-271/真昼間の『南京宣伝』272-274/商取引は停止せねばならぬ-英帝国主義はかく命令する-275-279/英国の干渉政策の二三の特徴的実例280-286/上海に於ける総罷業とその教訓287-290/南京の亡霊291-295

[参考]:『中支』(中支那一般)『言語』

41. 支那の実相

大村欣一

東亜同文会調査編纂部(東京)

昭和4年4月20日

菊版 493頁 3円 函

◆支那開港以前の各国関係46-132/在支外人設立学校概観;上海聖約翰大学333-334/上海震旦大学340-341/上海三育大学350/上海滬江大学350/吳淞同済医工専門学校351/江南三角洲の史的考察;上海県の沿革435-439/海運と上海439-441/上海県の丁口441-443/上海の田額賦率賦額443-447

[参考]:『米澤』:「著者の遺稿集。「支那開港以前の各国関係」及び「江南三角洲の史的考察」の二つは上海史に関係多き好論文。『華中』(歴史地理107)

42. 異国秘話 人肉異香

竹内 譲

南海書院 (東京)

昭和4年

四六版 338頁 函版

[注]: 奥付なし。著者「はしがき」の日付は「昭和三年春桜咲く頃」とするが、表紙裏の広告の日付が「昭和四年八月」とあるので、発行年を昭和4年としておく。

◆上海の一夜1-22; 市内巡り/吉原見物/大世界の歡樂郷/茶館の女/太馬路の夕闇/支那の待合/夜の公園/琉球踊り

<1930>

◎ 支那の左翼戦線

昭和5年4月15日

◇3版(「II-43」)奥付による。

43. 支那の左翼戦線

村田孜郎

萬里閣書房 (東京)

昭和5年4月30日3版

四六版 328頁

1円50銭 カバー

◆三月革命記1-25/魔都209-232

44. 山洲根津先生伝

東亜同文書院滬友会同窓会編

根津先生伝編纂部 (東亜同文会内)

昭和5年5月10日

菊版 490頁 非売品 函

◆本伝; 日清貿易研究所時代21-42/東亜同文書院設立前後の活動73-92/育英事業98-136

45. 支那

前田河広一郎

改造社 (東京)

昭和5年5月25日

四六版 649頁 2円50銭

◆上海の宿327-408/蒋介石(五幕)409-523

[参考]: 『言語』

◎ グロテスク支那

昭和5年6月25日

◇6版(「II-46」)奥付による。

◎ 巴里上海歡樂郷案内

昭和5年7月20日

◇25版(「II-47」)奥付による。

46. グロテスク支那

長永義正

萬里閣書房 (東京)

昭和5年7月25日6版

四六版 283頁 1円50銭

◆名裁判85-90/花会悲話95-100/裸行列134-136/石女訴訟139-141/糞試合145-147/満漢全席149-154/人造蝦仁154-156/熊掌156-160/上海の姿176/維新当時の上海178-179/上海異聞録206-209

[参考]:『言語』

47. 巴里上海歡樂郷案内 [談奇群書第一編]

酒井 潔

竹酔書房 (東京)

昭和 5 年 9 月 10 日 25 版

四六版 300 頁 函版・表

1 円 50 銭

◆第三編 上海の歡樂郷 223 - 300 ; チー・ワ [☆「去否」行くか?] / 大世界の貴女 ; 挿図 4 頁 / 南京路先施公司の夜景 / 上海野鷄モダン美人 / 代表的上海ガールの一典型 / 断然 1930 年形の上海ガール

<1931>

48. 支那文化を中心に

評論隨筆家協會編

大阪屋号書店 (東京)

昭和 6 年 9 月 15 日

四六版 400 頁 1 円 80 銭

◆上篇; [新居格] 上海交響樂 23 - 46 / [田中貢太郎] 美酒「花雕」記 80 - 114 | 中篇; [井東憲] 黒子を掬る話 195 - 203 / [前田河広一郎] 支那の乞食その他 204 - 223 | 下篇; [芥川龍之介] 南国の美人 291 - 302 / [村松梢風] 上海の民衆娛樂場 333 - 342